

## 出前講座「世界のなかのフランス語」報告

広島大学マスタース会員 原野 昇

公益財団法人・東広島市教育文化振興事業団による中央生涯学習センター(くらら)主催講座として、東広島市生涯学習まちづくり出前講座の一つとして登録してあった「世界のなかのフランス語」が実施された。

日時：2017年12月6日(水) 14:00～16:00

場所：くらら(東広島芸術文化ホール) 研修室7

最初に、世界の言語の多様性(約8,000言語)、それらの系統的分類について概説し、インド・ヨーロッパ(印欧)語族について、ケルト語派、ゲルマン語派、イタリック語派を中心にみていった。ラテン語はイタリック語派の一言語であり、ローマの北近郊ラティウムの丘を中心とした狭い地域に生活していたラティニ族の話していた言語である。その元々少数者の言語であったラテン語が広大なローマ帝国内で話されるようになった次第を、フランス(ガリア)を例にみていった。次に、そのラテン語が徐々に崩れていき、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語、ルーマニア語などのロマン諸語に分かれていった経緯をみていった。フランス語の起こりを通して、世界の言語のなかに占めるフランス語の位置を確認した。



東広島市教育文化振興事業団撮影